

令和 5年度 園評価書

園番号 32 園名 静岡市立飯田南こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
自分が好き 友だちが好き	思いを伝えようとする子	「やりたい」と思う遊びを見つけ、考えたり試したりしながら心ゆくまで楽しんでいる	「やりたい」と思えるような環境や関わりを意識し、様々な素材や用具を用意したことで、何度も繰り返したり、じっくりと遊ぶ姿が見られるようになった。遊びの時間が保証されているため、やりたい遊びを十分に楽しむ中で考えたり試したりする姿につながり、「こうしたら、こうなる」などの気づきが出てきている	A	A	・コロナ禍に入園したので、園の様子が分かりにくかったが、評議員になったことで、実際に子ども達が遊んでいる姿や園の様子を詳しく見ることができた。	自分のやりたい遊びを見つけ存分に楽しむ中で、周りの友達に目を向け、「友達と一緒に遊ぶと、もっと遊びが広がる」という経験ができるように環境を整え、遊びに関わるタイミングや距離感について園内研修で学んできた。日々の保育に研修の学びを生かしてきたことで、友達の意見を受け止めながら自分の意見を伝え遊びを進めようとする子ども達の姿が増えてきている。しかし、保育者には自分なりの方法で思いを伝えることができて、まだ友達にはうまく伝えられない子が多い。遊び会議や保育予定ボードを活用し、子ども達の遊びの「今」を職員間で共有しながら、環境構成行っていくと共に、エピソードを用いるなど研修のやり方を工夫し、子ども達同士の遊びの広がりが見られるような関わり方を学んでいきたい。また、物を大切にしている意識が弱いので、使いやすく、片づけやすい環境の整備や、今日の遊びを明日につなげられる環境を意識していきたい
		思いや考えを自分なりの表現で、保育者や友だちに伝えようとする姿がある	一人ひとりの表現の仕方を保育教諭が認めていることで、安心して思いや考えを保育教諭に伝えようとする姿が見られる。友達同士では、相手に分かるように伝えることが難しい場面も見られたため、保育教諭が代弁したり仲介したりする事で思いが伝わる喜びが感じられるようにし、「伝えたい」気持ちがあふくむよう関わってきた	A	A	・子どもの遊び環境においては、可動式の用具や遊具が豊富にあり、子ども達が自由に移動させて遊ぶ姿が見られ、遊びが充実し子どもが満足して遊んでいると感じた。今後も、さらに工夫し子ども自身が考えて遊べる環境を目指していってほしいと思う	
		遊びの中で友だちの思いや良さに気づき、一緒に遊びを楽しんでいる	保育教諭と一緒に遊ぶ中で、友だちの思いを伝えたり子ども自身が友達の良さに気づけるような関わりを意識したことで、友達の思いや良さを知り、友達の真似をしたり自分もやってみたくて様々な遊びに関心を示すようになったりしている。友達に思いを伝え、関わることで遊びが広がり、遊びこむ中で友達と一緒に工夫する姿が見られるようになった	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	発達の道筋を保育者が理解したうえで、それぞれの年齢で発達に必要な遊びが経験できるよう、保育教諭が意識を持ち関わっている	歳児ごとの発達を押さえながら、個々の育ちや経験に配慮し、子どもの興味関心とともにその年齢ごとの経験させたいことを考え、発達に必要な遊びの経験ができるように配慮している。乳児・幼児会議の場で、遊びや環境について話し合い共有を図っているが、全体での共有が不十分な面があり、工夫が必要である	A	A	・それぞれの年齢で発達や家庭環境に応じた保育の配慮があり、集団の中で、個を大切にしている事がわかる。子ども達がのびのびと生活している。送迎の際に保護者に子どもの様子を伝えたり、家庭での様子を聞いたり保護者とのコミュニケーションが大切になってくるので、これからも続けていってほしい	経験の浅い職員が多いため、それぞれが発達の道筋を学びながら見通しを持ったかかわりができるよう、遊び会議を定着させ、各クラスの遊びの様子を園全体で共有するようにしていく。明日の遊びを学年ごとではなく、全体で考えられるようにしたい
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	動と静のバランスに配慮した無理のない活動を計画し、年齢発達に合わせた生活リズムが確立できるよう努めている	「今週の保育予定ボード」を活用し、学年ごとの園庭使用時間を緩やかに分け、発達に合わせた活動ができるようにしたり、外遊びと室内遊びのバランスを考えたりして、一日の活動を計画している。生活の流れや動線を考え、繰り返しの中で生活リズムが確立できるよう努めている。家庭と連携を取り、引き続き生活リズムの安定を図れるようにしたい。	B	B		家庭からの情報の共有を行い、個々の状態を把握しながら戸外遊びと室内遊びのバランスを考え、ゆったりと生活できるように配慮していく。保育予定ボードを活用し、園庭使用時間を学年ごとに意識しながら遊びの計画をすすめていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの姿や思いに合わせた教材や場所を探り、タイミングを考えて提供することで一人ひとりがじっくりと遊びこめる環境を整えている	子どもの発達、興味関心や保育の振り返りから必要な環境を考え、教材の提供の仕方やタイミングを意識して構成したことで、じっくり遊ぶ姿が増えた。園内研修での学びを生かして環境構成に取り組んだり、幼児会議や乳児会議で環境について話し合ったりしながら工夫している。園庭環境については、遊具や用具の整理が課題となっている。遊びやすく、片づけやすい園庭環境について改めて話し合い、改善していく	B	A	・自宅の畑にいと、子どもたちの声が聞こえてくる。子どもの声が元気に聞こえてくると、園でのびのび生活していることが分かり、うれしく思う。来年度の自治会と園との防災の連携を進めていけるよう、引継ぎをしていきたい	子どもの思いや遊びの姿をしっかりと理解した上で、遊び会議や保育予定ボードを活用してその都度環境を整えていく。園庭環境については、環境の見直しをしていく中で、その時の子どもの遊びや季節にあった遊具や用具を用意し、片づけやすい環境作りをしていくようにする
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	さまざまな場面を想定した避難訓練を行い、職員同士連携を取りながら状況に応じた行動が取れ、園児に対しても自分で身を守れるような指導ができています	年間計画のもと、様々な想定での避難訓練(毎月)や不審者訓練(年5回)を行い、子どもや職員の動きを確認した。また、子ども達には状況に合わせた避難の仕方を繰り返し伝えたり、訓練をする意味を知らせたりすることで意識づけしている。訓練後に反省を行い、職員の対応の見直しを図った。	A	A		毎月の訓練の際に出た反省をもとに訓練のやり方や職員の対応について改善していく。毎月の職員会議の中で、反省や具体的な改善点を職員間で共有し、誰もが自分の役割を把握して積極的に行動できるように訓練を積み重ねていきたい
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	手洗い・うがいや、排泄・身支度など基本的な生活習慣が身につくよう、年齢や発達に合わせた指導ができています	基本的な生活習慣が身につくよう、年齢や発達に合わせて介助したり声をかけたり掲示をしたりしている。感染症予防には、手洗いうがいが有効であることを子ども達に伝えたり、子ども達が自ら気づいて行う姿につながったため、行う事の意味を知らせることで、自分からやろうとする気持ちを育てることが大切だと感じている。	A	A	・年長クラスで、保育室でテーマを持って話し合う活動をしているところを見るのができ、年齢や発達に合わせた活動が行われている事が分かった。ホワイトボードを使い、字やイラストで示している様子も、学年や発達に合わせて行われている。	基本的な生活習慣を行うことの意味や必要性について、子どもとともに確認する事を大切にしていきたい。およそ何歳児で達成に向かったら良いのかを職員が意識し、日々の繰り返しの中で無理なく身につけられるように指導していく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	ユニバーサルデザインをさらに取り入れ、誰もがわかりやすく、生活しやすい環境づくりができています	ユニバーサルデザインの園内研修を行い、その大切さを職員間で共有し、園全体で足並みを揃えて取り組むことができた。どの子にも分かりやすい環境と考え、各クラスの年齢や発達に合わせた環境作りを行った。園で統一された表示をさらに増やしていくなど、引き続き取り組んでいく	B	B	・一年を通して見ると、職員が子どもの発達していく姿に合わせて支援し、また、四季の移り変わりを生かして環境を用意していることがわかり、努力が感じられる。・散歩や地域の行事に参加することで、地域とのつながりを引き続き大切にしてほしい。	園全体として捉え、誰もが生活しやすいUDを考えていく。その場限りにならないように、定期的に園内研修を行ったり、見直したりする機会を設けていく。UDを学ぶ事で、いかに人的UDが大切か知ることができたので、個々の特性に適した関わりについてより学びを深めていきたい
5 組織運営	(1)組織体制の充実	担当者が分掌に責任を持って取り組み、進捗状況の共有を図っていくことで、職員が協力し合える体制ができています	年間計画のもとに、各分掌で計画をし、分掌のメンバーで役割分担をすることで、計画的に活動することができた。担当者が、積極的に他職員へ相談・分担することで協力して進められた所もあるが、内容や進捗状況の全体での共有には課題が残った。職員会議や泡の打ち合わせの機会を活かし、連携体制をさらに整えていきたい。	A	A		分掌ごとの取り組みや計画を月一回会議や朝の打ち合わせなどで伝え、全員で進捗状況の確認を行う。分掌の担当者会議も分掌計画に織り込んでいく
6 研 修	(1)研修体制の充実	友だちの思いにふれた時の子どもの心の動きを大切に捉え、その場の距離感やタイミングを考えた関わりができています	園内研修を通して、様々な角度から子どもの姿を捉え、意見を出し合い学び、子ども理解を深めている。研修での学びを生かし、子どもと一緒に遊ぶ中で、仕草や表情をよく見て心情を丁寧に捉え、そこから遊びの見取りをしたり、関わり方のタイミングを考えたりしている。	A	A	・コミュニティスクールなど、園と小学校との連携を進めている。小学校では、「協同的な学び」と「個別最適な学び」をバランスよく行っていく事を目指しているが、「個別最適な学び」については、こども園が進んでいると感じる。製作活動の際、小学校では一人一つの素材を持って来る形で行うことがほとんどだが、園では様々な材料が豊富に用意されており、子ども達が自由に選ぶことで発想が広がっていている。一人ひとりにあった学びを進めていくには、こども園のやり方を学んでいく必要がある。学校の先生達にも園の様子を見てもらう機会を作り、還元していきたい。	子どもの内面を捉える研修を引き続き行っていきたい。公開保育の事後研での学びを元に、その後保育がどのように変化していったのかを追跡していくなど、研修の持ち方をより具体的にわかりやすく、どの職員も発言しやすいように工夫し、学びが実践につながるようにしていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	ヒヤリハットや保育環境・遊びだしの環境の検討を行い、安心安全な環境づくりに努めている	ヒヤリハットを集計し、職員会議で分析改善を繰り返し行うことで危険防止に努めた。子ども達の成長により、動きが変わってくると、危険箇所も変わってくるため、年間を通してハザードマップを活用し危険箇所の共有を図り、安全な環境作りを進めていく。	B	B		ヒヤリハットを提出する職員が偏ってしまっているため、全職員の危機管理に対する意識を高めていきたい。より多くの事例を職員間で共有し、定期的に分析・改善を図っていく事で職員の安全に対する意識の向上を図っていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	ドキュメンテーションやクラスボードの内容を工夫しながら、子どもの遊ぶ姿や情報を発信し、保護者と子どもの育ちを支える関係づくりに努めている	子どもの姿や育ちが保護者に分かりやすく伝わるように、クラスボードやおたよりにはイラストや写真を用いて発信することができている。クラスボードをきっかけに、親子の会話が広がっている場面が見られるようになった。「ここを伝えたい」というポイントを明確にして作成することで、保育の意図を伝える事ができるよう、さらに工夫していく。	B	B		職員としては工夫しているものの、保育者の思いや保育の教育的意義がなかなか保護者に伝わらない。来年度は、タブレットでの配信が始まるため、職員が使い方ややり方をしっかりと把握し、写真を有効に使いながらより伝わりやすい工夫をしていきたい。
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	アプローチカリキュラムを作成し、架け橋期としての情報共有を行いながら、近隣の小学校との連携が進む	公開保育・公開授業・子どもを語る会などで近隣の園と学校の職員とともに地域の子どもの情報を共有している。11月にはアプローチカリキュラムを作成し、飯田東小学校と年長児との交流の計画をたて、年長児が学校の施設を見学させてもらい、就学に向けて期待が持てるようにした。	B	B		公開保育や公開授業、子どもを語る会などの情報共有を引き続き行い、知れた情報を職員会議などで共有し、保育にいかしていくようにする。また、アプローチカリキュラムを10月には作成し、架け橋期の連携がよりスムーズにできるよう努めたい
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	散歩に出かけ地域の方々とあいさつを交わしたり、相撲教室などに参加したりする中で、保育者や子ども達が地域に親しみをもち持っている	年長児の相撲体験やしめ縄作りなど、地域の方の協力を得て交流したり、勤労感謝訪問で地域に出かけたりすることができた。また、散歩の際には、出会った地域の方に進んで挨拶することで、温かく声を掛けて頂き、子ども達も笑顔で接し地域の方に親しみを覚えることができた。	A	A		お散歩マップを活用しながら、散歩にでかける機会を増やし、園児が地域に親しみをもち、新たな発見をしたりその良さに気付いたりできるようにしていく